



- 特集 新任職員研修
研修状況及び講義の概要
(注)「訪問インタビューシリーズ」は休載します。
- 新任研アンケート結果から
□ 秋田市仁井田界隈めぐり

秋田県生涯学習センター（編集：社会教育アドバイザー）

秋田県生涯学習・社会教育関係者研修

新任職員研修

令和2年5月13日(水)・14日(木)

本研修は、生涯学習・社会教育関係の新任職員の資質向上をねらいとして毎年実施されています。今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により研修用動画を「You Tube」で視聴する方式で実施されました。研修テーマ「必修！初めに知っておくべき生涯学習・社会教育行政の役割と可能性」の下、県内17市町村及び県教委関係の新任職員44名その他経験者等30名の計74名が参加し、動画アクセス数は390回(5/20現在)に及びました。

研修用動画の講義は、新任職員に求められる基本的事項について、講師自身の社会教育主事の経験と実践に基づく具体的な内容も盛り込みながら2コマ配信されました。視聴者からは、「理解が深まった」、「新たな気付きや発見があった」など、多数の反響がありました。

(※ 研修者の反響等については、次頁の「ミニセミナー」で一部紹介します。)

講義①

「開かれ、つながる社会教育の実現に向けて ～社会教育関係職員の社会的責任～」

秋田県生涯学習センター 主幹(兼)班長 皆川雅仁



- 1 「社会教育」って…？
- 2 生涯学習・社会教育のイメージ
- 3 いま、社会教育の喫緊の課題は…
- 4 社会教育におけるマネジメントサイクル
- 5 課題解決に有効な話し合いの手法
- 6 社会教育関係職員として必要な心構え

社会教育関係職員(主事)
「三原則」

- ・社会教育主事に“No”はない
- ・友達の友達は…皆、友達だ！
- ・“こだわりをもたない”こだわりを…

社会教育全般にわたる講義内容は、広範かつハイレベルであるにもかかわらず具体的な実践がイメージしやすいものでした。はじめは、関係法令体系を紐解いて社会教育関係職員の立ち位置を明確にし、次に、社会教育と学校教育の共通の課題、目標共有のための「熟議」のノウハウに触れ、最後は、社会教育関係職員三原則で締めくくりました。新任職員への心のこもったエールでした。

講義②

「現代的な課題への切り込み方 ～生涯学習センターの取り組み事例から～」

秋田県生涯学習センター 主任社会教育主事 柏木 睦

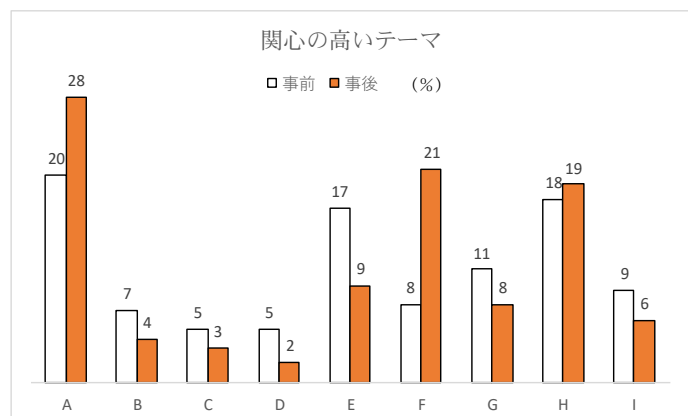


L ook	いろいろな視点から 客観的・説得力	D o	できない理由を探さない どうしたらできるか！
R eform	ゼロからは苦しい 何かある！ 誰かいる！	C onnect	LRDCの流れを連続で起こす どこを目指すのかを忘れずに！

生涯学習とは… いつでも どこでも だれでも なんでも

LRDC社会教育のマネジメントサイクル(2019皆川)による課題解決の手順等について、当センターが取り組んだ「障害者の生涯学習」に関する調査、研修、講座をもとにした解説がありました。目標を見失わない取組の連鎖が、結果として多様な人とのつながりを生んだという実践事例には説得力があり、特に、「バリアフルレストラン」における少数派の視点は、目から鱗で示唆に富むものでした。

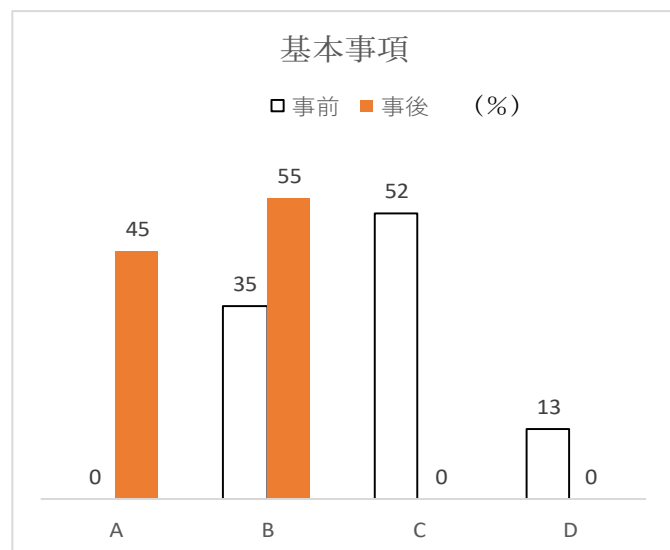
このたびの受講申込者74名中、アンケートに回答いただいた71名の集計結果（一部）です。



- A 地域住民と学校の連携・協働（地域学校協働活動やコミュニティ・スクール）
- B 放課後や学校休業日における青少年の居場所づくり
- C 家庭教育支援の充実
- D 青少年の健全育成、インターネットの健全利用
- E 成人や高齢者を対象とした学習講座や講演会の開催
- F 障害者の生涯学習支援
- G 生涯学習団体やサークルに対する活動の支援
- H 地域人材の効果的な育成・活用
- I 効率的な学習情報の提供

事前 A、E、G、Hは、各市町村において、課題意識をもって試行錯誤を繰り返しながら具体的な取組を重ねていることがらでもあることから、本研修実施前から関心度は比較的高い。

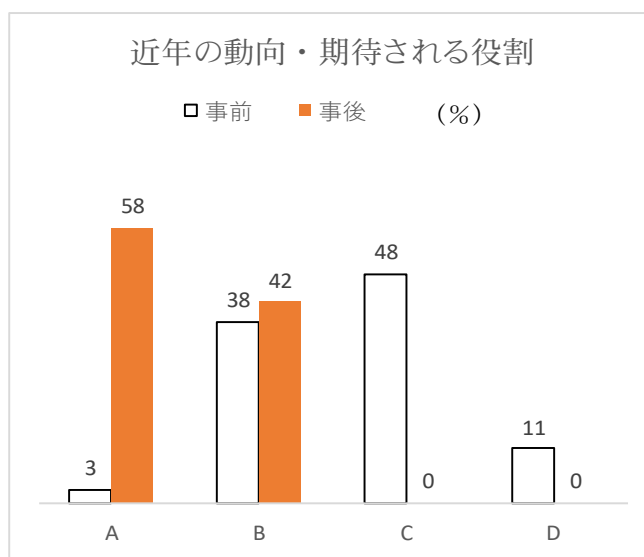
事後 A、F、Hは、講義の主要部分でもあり関心の高まりがみられる。特に、Fについては、生涯学習の今日的課題に関する視聴者の認識が深まり、関心度の上昇が顕著となった。



- A 理解している
- B 多少は理解している
- C あまり理解していない
- D 理解していない

A + B (理解している)	事前	C + D (理解していない)
35%	↓	65%
100%	事後	0%

「理解している」が事前35%から事後100%に上昇。研修のねらいの一つでもある基礎的知識の習得に係る成果が、新任職員のみならず経験者等の視聴者にまで及んだ。



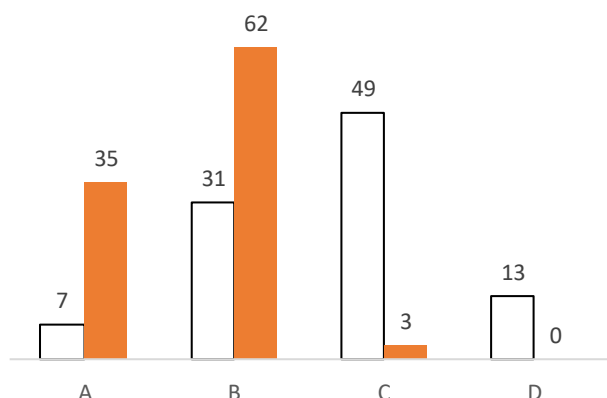
- A 理解している
- B 多少は理解している
- C あまり理解していない
- D 理解していない

A + B (理解している)	事前	C + D (理解していない)
41%	↓	59%
100%	事後	0%

「理解している」が事前41%から事後100%に上昇。「地域と学校の連携・協働」、「障害者の生涯学習」などに関する新傾向の講義内容が視聴者全体の理解を深めた。

連携・協働の必要性の認識

□ 事前 ■ 事後 (%)



A 理解している C あまり理解していない
B 多少は理解している D 理解していない

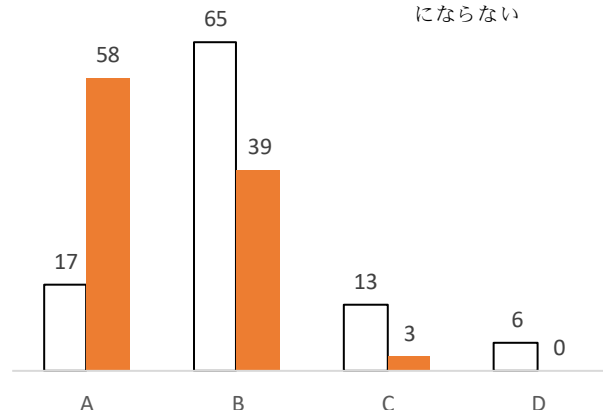
A + B (理解している) C + D (理解していない)

38% 事前 62%
↓ ↓ ↓
97% 事後 3%

「理解している」が事前38%から事後97%に上昇。連携・協働に関するこれまでの一般的な知識に加えて、講義での具体的な事例をとおして考えることでさらに理解を深めた。

人脈づくりの必要性

□ 事前 ■ 事後 (%) ※ 事前%の合計表示桁数の調整で100にならない



A 理解している C あまり理解していない
B 多少は理解している D 理解していない

A + B (理解している) C + D (理解していない)

82% 事前 19%
↓ ↓ ↓
97% 事後 3%

「理解している」が事前(82%)、事後(97%)ともに高い。「人脈づくりの必要性」は、生涯学習・社会教育のゆるやかなネットワークづくりの基本的な要素として認識されている。

「業務上で疑問や不安を感じていることへのヒント」の記述から（抜粋）

- You Tubeでの研修は、空き時間での受講や移動の手間もいらないので積極的に活用したい。
- 生涯学習・社会教育を推進する社会的責任や気遣い、奥深さについての理解が深まった。
- 学校と地域の連携・協働の取組などに研修内容を生かしたい。
- 自分の立場を変えた見方が、課題への切り込み方に必要な視点であることに気付いた。
- 社会教育のマネジメントサイクルLRDCが、人材や素材を改良したり、緩やかなネットワークを生み出したりすることを知った。
- 「社会の要請」を汲み取るというより、「社会の要請」を創り出して気付きを生み出していくことが社会教育行政の役割だと思い至った。

研修用動画を「You Tube」で視聴する方式で実施した本研修は、新任職員等受講者数の増加や動画アクセス回数の多さなどから、関心の高さがうかがえます。

本研修の趣旨である新任職員に求められる基礎的知識や施策の動向を学ぶことについては、アンケートの調査結果から概ね達成できたと捉えています。ただ、新任職員の交流や県内におけるネットワーク形成については、研修方式上の今後の課題となります。

【詳細は、当センターのホームページ「研修実施レポート」をご覧ください。】



〈収録風景〉



サイクリングロード 雄物川堤防にて



ウォーキングやサイクリングを楽しむ多くの人が行き交います。



生け垣の小径 大野集落にて



大野の道の生け垣。しばし歩みを止め、緩やかな風を感じたくなります。



「大野の撫斬」慰霊碑 浄水場付近にて



「大野の撫斬」は、元禄9年大野村を流れる大野川(古川)で釣りをしていた秋田藩士と舟で荷(草)を運ぶ地元農民との諍いです。農民の舟荷が藩士の釣り糸に引っ掛かったことが発端のようです。

言い伝えでは、藩士が農民を斬罪する私刑を企て、農民関係者22人を斬殺したとされています。一方、藩の公記録では、農民が武士を面縛した罪科により、事件の発端となった者2人を磔の極刑、名主はじめ村人20人は斬首刑となり、藩士は無罪及び閉門となっています。

慰霊碑の立つこの位置は、撫斬事件の処刑地と伝えられています。



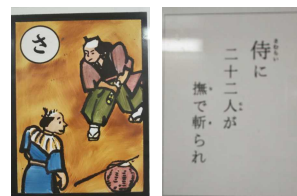
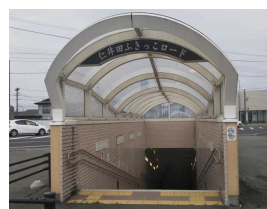
標柱「昔江真澄の道」 大野八幡神社にて

大野の女は野菜を背負つて久保田の市で売る



民艸の手向け安らむひ
ろ前に大野のはらの
あまかな大野の
甜菜辛菜を真澄

仁井田ふきっこロード 国道13号交差点



地下道左右の壁にある「郷土かるた『おらほの仁井田』」は、大人も子どもも地域の歴史、地理、文化などを知ることができます。

七色

「危機が証明したのは“社会”というものが存在するということだ」は、新型コロナウイルスに感染した英首相ボリス・ジョンソンの言葉です。想定外の事態が多発する時代にあって、改めて地域社会の在り方が問われました◆コロナ禍は、日本でも地域によっては「みんなのためになり、しかも自分のためにもなる」という“自粛”の道理が揺らぐなど、地域社会の脆弱性をあぶり出しました。個人主義的な多様性や異質性が林立する中だからこそ「地域社会をどう維持し、持続すべきか」と向き合う必要を感じます◆「人としてどう生きるか」の自発的な行為を促すものは個々の道徳観であり、「人として守り行すべき道」の規範や秩序の基準となるものは社会通念上の倫理観です。「しなければいけないこと」と「してはいけないこと」の線引きが曖昧になっている昨今、地域社会の今日的課題は「人として守り行すべき道を見失わずに、人としてどう生きるか」に帰着します◆持続可能な地域づくりの根幹にあるものは、共に生きる喜びや力を共感する共生社会です。仲良く助け合う地域風土を醸成するものは、互いのこだわりを分かち合える緩やかなネットワークと公正・公共の普遍的な基準となる考え方や捉え方の共有ではないでしょうか。